第２回草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会議事録

■日時：

令和５年１月２６日（木）１３時３０分～１６時００分

■場所：

草津市立市民総合交流センター（キラリエ草津）　５０２・５０３会議室

■出席委員：

　乾委員、土山委員、森田委員、四方委員、出呂町委員、齋藤委員、喜田委員、佐藤委員

■欠席委員：

　平井委員、布施委員

■事務局：

【行政】

髙岡部長、宮嶋副部長、西山課長、矢野係長、中波係長、中司主任

■中間支援組織

【（公財）草津市コミュニティ事業団】

　　栗田氏、中村氏

　【（社福）草津市社会福祉協議会】

　　秋吉課長

■協働コーディネーター

　　阿部氏、仲野氏

■傍聴者：

　１名

**１．開会**

【事務局】

本日は、令和４年度第２回草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会に御出席いただきましてありがとうございます。開会にあたりまして、草津市まちづくり協働部長の髙岡より一言御挨拶申し上げます。

【高岡部長】

令和４年度第２回草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会開催にあたり、一言御挨拶を申しあげます。委員の皆様におかれましては、公私共に御多忙のところ本委員会に御出席をいただき厚く御礼申しあげます。また、本委員会は令和４年７月から新たな任期を迎えており、今回が新たなメンバーでの第一回目の委員会となります。前回に引き続き委員に就任いただきました皆さんはもちろんのこと、新しく就任いただきました皆さんも任期満了までどうぞよろしくお願いいたします。

さて本市では、市民参加を市政運営の基本原則とし、市民との協働をまちづくりの基本として掲げており、平成２４年に施行しました「草津市市民参加条例」や平成２６年に施行しました「草津市協働のまちづくり条例」に基づき、令和２年３月に第２次草津市協働のまちづくり推進計画を基に協働のまちづくりの実現に向けた取組を進めているところです。また、来年度からは新たな協働のまちづくり推進計画の検討を進めていくことから、本日の資料にありますように、協働のまちづくりや市民参加の現状と課題を踏まえ、今後の施策の方向性について議論いただきたく、皆様には、それぞれのお立場から忌憚のない意見をいただきますようお願い申しあげます。

結びにあたりまして、この委員会が皆様にとって、また本市にとって大きな実りのあるものになりますよう祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

**２．自己紹介**

<各委員より自己紹介及び事務局の紹介>

**３．委員長・副委員長の選出**

　<草津市附属機関運営規則第４条第１項に基づき、委員長に乾委員を、副委員長に土山委員を選出>

**４．第１回草津市協働のまちづくり推進計画・市民参加推進評価委員会概要について**

【事務局】

　<資料２に基づき説明>

**５．報告事項**

**（１）第２次草津市協働のまちづくり推進計画　目標数値の評価**

【委員長】

　報告事項１の第２次草津市協働のまちづくり推進計画　目標数値の評価について資料説明をお願いいたします。

【事務局】

　<資料３に基づき説明>

【委員長】

　説明のあった内容について、御意見等お願いします。

【**B**委員】

　令和３年の数値で目標と乖離しているところがありますが、その乖離は意味がある乖離なのか、あるいは誤差なのかどちらですか。また、意味のある乖離であればその理由を聞きたいです。

【事務局】

　協働のまちづくり推進計画の策定を行ったのが、新型コロナウイルス感染症流行前でした。まちづくりの活動を行う際、人と人が会って交流や活動を行う必要があります。感染症が拡大したことで行動制限が出てしまい、地域の組織やグループ活動に制限や停止があったと考えられることから、目標数値との乖離が出ていると分析しております。令和４年度は行動制限が緩和されたことから、今後は目標数値に近い数値が出てくると考えております。

【副委員長】

資料３の太枠で囲まれている市民主役のまちづくりができていると思っている人が7.8ポイント増えたとか、組織やグループに入った人が3.5ポイント増えたということですが、これは市民アンケートに答えた人が感じた数値なので、実数かどうかは分からないという前提で見たほうがいいと思いました。一方で、審議会で女性委員比率が５０％の目標数値が掲げられています。これは実数ですので、前年度より増えている事が分かります。

【委員長】

　アンケートは、回答者により偏りがあり、質問が漠然としているため、アンケート結果の数値だけではなく、追加や補足の情報が欲しいです。

草津市として全てを把握する事は無理ですが、コミュニティ事業団や社協の事例が数字の裏にはあると思います。報告するときには、本来の数字と現場の事例などの説明を、良くなった、悪くなったなどの話をするときの材料として欲しいです。今後は数字だけではなく徐々にそのような考え方にすればよいと思います。例えば、地域カルテみたいなものを作っていくと数値目標の代替えの話としてできると思います。今後はそういった報告が聞きたいです。

【事務局（社協）】

　社会福祉協議会でも地域の分析が必要と理解しています。小学校区毎に分けて分析しようと考えています。

委員長から話があったように、コロナウイルス感染症拡大によりボランティア登録数は激減しました。特に音楽ボランティアの活動停止や解散が多いです。委員長がおっしゃったように、アンケート数値が上がっている部分と、社協の助け合いでやっているグループや地域福祉活動の参加率は違うと思います。市内のボランティアの年代層は６０代以上が大半を占めます。コロナ禍において一番リスクが高いといわれていたのが６０代以上でしたので活動が止まっていたと考えられます。

【委員長】

　貴重なデータをありがとうございます。そういう話をきちんと整理して、報告を聞く場があればいいと思います。社協の作っているカルテについて、コミュニティ事業団の関わっているまちづくり協議会の話との掛け算みたいな話が出るはずですし、市民活動側の動きもセットになっていくはずです。

できればそれを一つに集約しながら、地域ごとに活動がわかると良いと思います。社協の抱えている高齢者ボランティアと市民活動の方の人たちとの関係というものはすぐには出来ないかもしれませんが、これから先の方向性を議論するときの大事な材料になると思うので、そういう意味でカルテがあると非常に良いと思います。

【事務局（事業団）】

資料のD-2はコミュニティ事業団と社会福祉協議会が協働で行う事業です。コミュニティ事業団サイドと社会福祉協議会サイドの双方で地域での取り組み事例等を持ち合う場を設けます。事例の中で出てきたアイデア等の情報交換を行う予定で考えています。

【委員長】

　お願いしたいのはどこかでそういう場を作って、数値の報告だけでは見えない部分、数値の裏にある現実を社協さんと事業団さんの方で合わせながら、市が把握し、この委員会で聞かせていただけば、実態が分かる気がします。

【副委員長】

　前回も話をしていましたが、協働のまちづくり推進計画の更新が近づいています。更新の時に、コロナインパクトの状況を受け止めて、今後どうしていくかという話をする必要があると思います。今年度は今回で終わりですが、委員会の中でもう少し幅広く、例えば、今日のような事例の話などを丁寧にヒアリングしながら意見交換する機会を作っていくのも良いと思います。先ほどご紹介されていました協働コーディネーターさんのお力も借りながら、そういう場を作って意見交換をして共通認識を深めていくことがあってもよいと思いました。これは提案です。

**（２）協働事業の推進について**

【委員長】

　それでは報告事項（２）の協働事業の推進について資料説明をお願いします。

【事務局】

　<資料４・参考資料１・２・３・資料A・B-1・B-2・C・D-1・D-2・D-3・Eに基づいて説明>

【委員長】

　報告内容について、分からない部分等があれば言ってください。

【事務局】

　今回来ていただいた委員の皆さまの中で、先ほど説明したラウンドテーブルや交流会や職員の協働研修に参加をしていただいた方がおられるので、実際に参加していただいた方から御意見を頂きたいです。

【**B**委員】

　交流会に参加をしましたが、講演の中で山田学区のＬＩＮＥ活用の取組紹介が一番印象的です。学区ごとの悩みは多少違うと思いますが、結構共通なことが多いと思っています。成功事例の情報共有を市が中心になって拡散してほしいと思いました。

交流会の場では時間が足りず、話をたくさん聞けなかったので改めて聞こうと思っているのですが、個別に動くと相手が大変なので、市で場を作ってもらえると良いと思いました。

【**C**委員】

　ラウンドテーブルの話題提供者として参加をしましたが、参加をするときにラウンドテーブルの趣旨をあまり理解していませんでした。後で担当者から話を聞いて趣旨を知りましたが、ラウンドテーブルについてもう少し市民の方に広く周知をしても良いと思いました。

【A委員】

　ラウンドテーブルの世話人として活動をしています。ラウンドテーブルニュースや、チラシで告知をされていますが、何回もしていると同じ人ばかりが出席しているので、もっと新しい人にも参加をしてほしいと思っています。

ICTのテーマの時には、山田学区の方にも参加していただき話をしてくださったので、普段の参加者以外にもまちづくり協議会の人に参加していただけました。今後もテーマによって様々な参加者が増えれば良いと思います。

あと、それぞれの活動内容を紹介する回では市内で活動している団体さんと、私が行っているICT関連の活動でマッチングを図り、新しい活動に繋がっています。

それ以外にもマッチングテーブルで行政等と協働をして実施してみようということで様々な活動が広がっていると思います。少しずつですが、活動が広がっていると思います。

【委員長】

　話をまとめますと、団体さん同士で繋がれる場ができていて、参加する人は参加するけれど、参加者が固定化しているので、次にどう広げていくかですね。

もう一つは、まちづくり協議会で共通の悩みがあり、その悩みに対してじっくりと話し合いをする場が今のところあまりないという点ですね。

どちらも非常に大切だと思います。その辺りについて普段から感じていることが何かあれば意見お願いします。

【**D**委員】

　ラウンドテーブルに参加したことがあります。ラウンドテーブルをよく知っている人は続けて参加がしやすいので、新しい参加者が増えるよう、Step3で実現した事例等を挙げながら、市民に分かりやすく情報発信すれば良いと思います。

【委員長】

　目的等が明確な人はラウンドテーブルに行くけれど明確ではない人は行きにくいと思います。色んな人に来てもらえるように色んなテーマを設定したらいいのではないかと思います。

【**D**委員】

　ラウンドテーブルを実施するという告知はされていますが、実施した後の報告等が少ないと思います。

【**B**委員】

　よくあるパターンとしては、議論をするだけして解散ということですよね。

【**D**委員】

　どんな意見が出ていたか等のまとめがあれば、もう一歩議論が進んだと感じられると思います。

【事務局】

　ラウンドテーブルは話をするときは盛り上がるのですが、その次の話やまとめはまだ不十分だと思います。目的を達成するためにどんなラウンドテーブルの運営がよいのか今後検討していきたいです。

【**E**委員】

　大学生の中にも、地域と関わって問題解決をしたいという志があって学生団体を立ち上げたりする人もいるのですが、実際にどうやって地域と関わるのか、関わったとしてもそれが成果として現れるのかが気になります。

議論するのは簡単ですが、責任をもってやり遂げるかどうかを問われると、学生は少し弱いと思います。そういった部分において、学生がラウンドテーブルに参加することでやりたいことを形にできると思いました。

【委員長】

　志はあるけれど具体的に何をしたいかが分からない人が集まれる人材バンクのようなものがあれば良いかもしれません。

平場で対等な関係で議論することも大事ですが、色んな事をしたい人がいて、その人たちが集えるような場もあっても良いのかなと思います。地域でも同じことが出てくると思います。市民活動だけでなく地域でも学生の力が欲しい所があると思うのでうまくマッチングができれば良いです。

京都の中京区でつながるカフェというものがあり、活動をしたいけれど、何をすれば良いかわからない人たちが集まり、二条駅前を盛り上げたい等の提案をし、その提案にやってみたいと思う人が集うような仕組みがあります。実現性が高いものなので成果としても現れます。そういったやり方があればいいと思います。

草津市でも学生グループがたくさんあるので学生グループごとスカウトする等、色々やり方があると思います。

【事務局（事業団）】

　大学と地域とのマッチングの話題提供として、本日の資料D-3に“feel→do!”(フィールド)の資料を入れています。内容は今お話をされていた学生と地域や活動団体のマッチングの場としてプロジェクトを行っています。大学生は地域とどのように繋がれば良いのかがわからず、地域も大学生に来てほしいというそれぞれのニーズがあったので、“feel→do!”に限らず、コミュニティ事業団が地域と大学生のマッチングを今後も行ってまいります。

　また、来年度よりまちづくり協働課と事業団でSNSの活用を検討しています。市民の方に地域の情報やラウンドテーブルの案内の情報発信をする一つの媒体として活用していく予定です。

【委員長】

　様々な取組を行っておられるということが分かりました。

資料４に職員意識調査の結果の記載があります。その部分を事務局から説明をお願いします。

【事務局】

　<資料に基づき説明>

【**E**委員】

　職員の方が初めて参加した協働で嫌な思いをしてしまうと、そこから協働に対して悪いイメージを持ってしまうと思うので、“feel→do!”の場などで、学生と協働をしてみてはいいかがでしょうか。学生との協働であればハードルも高くないと思うので、学生と若手の職員が協働をしてみてもいいと思います。

**６．協議事項**

**（１）市民参加の拡大に向けた取組について**

【**D**委員】

　パブリックコメントが欲しいと言われて、ホームページを辿ってみましたが、たくさん資料を読んだ上で提出はFAXか持参してくださいと書いてありました。忙しい人もいらっしゃるので中々提出ができないと思います。

今はグーグルフォームでアンケートができます。（委員会は）そういう意見が出せるような時間にしていただきたいと思います。

【**F**委員】

パブコメの話について、パブコメをしようと試しましたが、こんな（分かり辛い）資料を読んでコメントすることができるのかと思いました。周りの家族などにも読んでもらいましたが、正直誰も分かりませんでした。行政に勤めていても、同じようにパブコメに意見出せるのかといえば、ややこしくて出来ないと思います。

**７．その他**

【**F**委員】

委員会全体について質問をさせてください。今日の資料の内容について、事前に説明をしてもらいましたが、まだ説明を受けていない方もこの場におられるのですか。それとも一度全員説明を受けたのに、再度説明を受けるのですか。

【事務局】

　今回は事前に資料説明をさせていただいていますが、再度、簡単に資料の説明をさせていただいた上で議論をしていただきたいです。

【**F**委員】

　この委員会はせっかくこうして集まっているのに、硬い雰囲気であることに疑問を感じています。こんな雰囲気では意見が言えないです。資料説明だけで終わるのですか。

【副委員長】

　フリーディスカッションから始めると、委員会として何の議論をしているのかが分かりにくくなるので、委員会の場で議題について確認する必要があります。

例えば、後からこの委員会を検証する人は、委員会の議事でどんなことが決まったのかを議事録で確認します。後から議事録で見たときに、前回の議事について確認する場が無くなると、委員会で何を話したのか分かりにくくなります。

いろんな意見交換を自由に行うことはよいと思います。雰囲気が硬いことに関しては私もそのように感じていますが、委員会という組織として確認しなければいけないことは確認する必要があると考えていただければと思います。

【**F**委員】

　皆が思っていることを言うために委員会を開くのではないのですか。協働や連携の意味等について話すための場ではないのかと思います。

【副委員長】

　せっかく集まって話をする場なのにと心配されているのであれば、それは私たちも同じように思っています。ただ、委員会として確認をすることや、決めることもあるので、その中で自由に話をしていただいたら良いと思います。

今日委員会に参加されて、運営面での提案等があれば言ってください。草津市の自治体基本条例を作ったときは、今日みたいな委員会と勉強会を設けてダブルヘッダーでやるという方法にしました。今日一通りやってみて、どうだったかなどを話し合いましょう。

【B委員】

　私は前回も出席しましたが、前回でも、もう少し時間が欲しいという話が出ていたと思います。

【**F**委員】

　今日初めて委員会に参加をしましたが、委員会はこういった雰囲気ということを知らずに来ました。何のために集まっているのかという目的は分からず、（委員会を）やりましたということを見せるためにしていることを想定していませんでした。

私は本質的に連携を推進するためにどうすれば良いのかのアイデア出しをするために委員会に呼ばれたと思っていました。今日の資料を配られたときに、理解できる市民の方ばかりではないと思っています。私は周りの人に今日の資料を見せて相談をしましたが、私の周りの人はこの資料で何を考えればよいのか分かりませんでした。今日皆さんが話されている内容もあまり分かりません。

今日の話を理解する人ばかりで内容を決めていくことも良いと思います。ただ、色んな人たちの意見も取り入れる気があるのであれば、内容の大枠が私の考えとは外れています。

【委員長】

　分からないことは分からないと言っていいと思います。この委員会は市民参加や協働を今後の方針や方向性の意見を出すために集まっています。この委員会は条例に基づいて確認が必要な事項があるので、その手続きを先ほどまで協議していましたが、その話だけではないと思います。現状や課題を聞いたうえでさらにバージョンアップをするために議論をする場のつもりです。今日の資料は分からないとおっしゃいましたが、この資料で全てが分かるものではないです。スタートラインとして議論をするためのものです。

　一番大事な話は元々あるものをアップデートするための議論です。日頃団体で活動されている時に、やりにくいことやどんな連携があれば良いのか、行政の立ち位置はどうなのかとかの話を出してもらうといいと思います。この委員会には様々なフィールドの人が集まります。自分の場所で経験している話を出してもらうとそこからまた広がっていきます

【**F**委員】

委員会は、色んな人が良い案を出し合ったうえで最良な案を決める場だと思っていました。この資料が分からないという意味は、保身によって作られた資料であるという感じが分かり辛いという意味です。この委員会が目的意識を共通で持ち、もっと連携をしていくためにどうするのかを話すつもりがあるのであれば、このような意見の言い方は非生産な時間だと思います。

【**B**委員】

　そもそも協働って何だろうと思っています。もしかしたら行政側からの上から目線の言葉になっているのかもしれません。

【委員長】

　行政はシステムで動いていて、システムをどう動かすかの知恵を絞ります。草津市をよくしたいと思っている人たちがここにいる。そういった意味では仲間かもしれませんが、一方でシステムの一部として制度や、お金を動かしている人たちです。事務局は事務局で行政を動かしている責任があります。

この審議会は色んな意見がある上でどのような方法を取ればシステムとして導入できるのか、草津市として制度として導入するのか等を議論する場だと思っています。

基本的にはより良いものを作るために話し合いをするためにあります。草津市の中で連携をするにあたって今後どうアップデートしていくかという具体的な話をしていく場だと思います。この資料だけに重きを置いているわけではないです。資料はあくまでも出発点です。

【**F**委員】

　この資料を作るだけでも凄く時間をかけておられると思います。委員会を行うことが目的なのであればそれでいいと思いますが、委員会を行うことは手段のはずですよね。もっと大きい視点で言えば私たちの幸せを作ることが目的だと思います。手段が目的になれば何も生まれないと思います。

【事務局（協働コーディネーター）】

　草津市は協働の取組を長く行っていて、我々も協働コーディネーターとして１０年ほど関わっています。良い意味で事務局と委員の間と良い関係がありましたが、長く委員会をしていくと馴れ合いになっていくのと、形骸化していっていると思います。

ラウンドテーブルのように市民の声を聞いて政策に繋げる仕組みはできましたが、そこから予算要求をして課題解決に繋がるところまではまだまだできていません。現場の話をしっかり聞いて政策に繋げる場を進めてもらえるようにすれば良いと思います。

この委員会が難しいのは、市民参加と協働の話をする場ですが、根拠条例が別々なところです。協働は計画を持っていますが、市民参加は計画を持っていません。市民参加はあまり目標がありません。市民参加を進める上で、何のために進めるのかというところをもう少し、かみ砕いて進めることが大事だと思います。

【**F**委員】

　条例で決まっているからしょうがないと思うかもしれませんが、条例はみんなを幸せにするために作られているはずなので、条例のために私たちの柔軟性が失われるのであれば、本末転倒ではないでしょうか。

立ち位置が違うだけで、みんなが幸せを作りたいと思っていると思います。職業が違うと、関わり方は違うと思いますが、より良くするためにアイデアを出す場ではないのですか。

【委員長】

　そもそも協働という言葉が語られだしたのは、2000年になってからです。それまでは参加や参画という言葉でした。協働という言葉自体、市民に仕事を任せることが色濃く出ています。草津市民の課題があってみんなで課題解決をして当たり前というのはその通りです。

自治都市には市民の中から委嘱をされて市の事務を行う事務局が存在し、そこには権力が生まれます。だから権力を制限するような形で自治体職員と市民の関係性が成り立っています。当該の市のことを決めるのは、全員の市民で決めますが、実際は議会や市長が決めます。全市民が市のことを決めるというのは100％正しいわけではないです。どこかに集まって市のことを話して市民みんなで運営しているわけではなく、運営しているのは事務局にいる行政で、市のことを日々運営しています。条例は意味がないと話がありましたが、条例があって守られるものもあります。条例によって市民活動や、地域活動もある程度守られます。

【副委員長】

　この場にいる人は全員皆の幸せを願っています。それを一緒に考える仲間であることは間違いないのですが、立場が違います。その立場を超えて考えることがあることも合っています。事務局側は色々施策を行っています。その行っている施策に対して意見を言うことは批判ではなくて仲間同士でも言う必要があるものは言わなければならないのかなと思います。

【**B**委員】

　この会議のタイトルは協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会ですよね。だから文字通り評価をする委員会と理解しています。そこから課題を見つけて提言をする委員会だと思っています。その上で協働とはどういうものなのか共通認識を持つべきものと思います。

【**C**委員】

　この委員会の委員になってほしいとオファーを頂いたときは、女性の意見も取り入れたいということでした。今は男女共同参画の社会ですが、様々な経験からの意見が欲しいという事務局からの思いで委員になりました。私は男性だから、女性だからという言葉はあまり好きではないです。男女関係なくみんなの幸せのために色んなことを一緒に考えていきたいと思っています。

【A委員】

　私は市民参加や協働について評価をするものと思っています。また、先ほど協働の意識はバラバラということが分かりましたが、基本的にはそれぞれ違う立場で協力をして働くことや、話し合ってより良いものを作ることだと思います。立場が違うからこそ色んな意見が出るのでそこから良いものを作ることが協働だと思うのですが、人によって協働の意識は違っていて、それを一つに決めに行くことを議論していたらキリがないと思うので、大枠は、それぞれ違う立場から意見を言い合って良いものを作ることでいいと思います。その一つとしてパブコメが活性化していないからどうすればパブコメが増えるのかを考えたらいいと思います。

【**D**委員】

　私は協働について色々勉強しましたが、人によって様々でした。人によってそれぞれの協働があると思います。私ができることは、自分が活動している周りの人達の声を届けることだと思っています。

【**E**委員】

　私は学生なので、学生の立場から協働は何かと考えたときに、先ほどお話がありましたがもちろん行政側の方も草津市に住んでおられるわけで、本来であれば皆さん市民で皆のための自治です。しかしながら、その自治を誰がするのかという話になったときに行政というシステムが責任を持たなければならないと思います。では、行政と市民がどう関わっていくのかを考えるのが協働と思います。その中で市民でも声をあげる人とあげない人がいると思います。私たち学生は、あまり声をあげないのですが、そういう人達も市民です。私は学生や普段意見を言わない人の代弁をしたいと思い参加をしました。

【**F**委員】

　本来は、皆で意見を出して良いものを作るのが生産的だと思います。今の状態は民主的ではないと思います。それぞれの意見を真ん中に出せるような委員会の運営にしたほうが時間の使い方として豊かだと思います。そうではなくて委員会というものが今日みたいなものなのであれば、困った話ですね。

【**E**委員】

　であれば解決策を皆であげることができたら理想的だと思います。

【**F**委員】

　今の話、例えばパブコメをどうしようという話で、私はたたき台として意見を出しましたが、皆さん持っておられると思います。さらにそこにプラスして意見を言い合う場の方がいいですよね。

【**E**委員】

　細かいところまで解決策を考えて、それに対して先細りの議論も必要だと思います。でも私は、本質的になぜ皆さんパブコメを答えないのかとかの本質的な議論をしておられるのかなと聞いていて思いました。ソリューションを先細りで考えることも、もちろん必要ですがその前に原因について議論する方が良いと思います。

例えば協働に対して意識の低い職員さんがいるのであればその原因について議論しないとそもそもの解決策が見えないと思います。解決策を議論しないと建設的ではないとおっしゃいましたがそんなことはないと思います。

【委員長】

　今日の場はいい場だったと思います。最初に話をしたみたいに、本当は硬い雰囲気にならずにキャッチボールをしたらいいと思います。その上でパブコメをどうするのか等、話さなければならない話もありました。たった一つの答えになる事はないと思います。それでもどこに問題があるのか等を話すべきだと思います。それがスタートラインと確認できましたよね。ちゃんと議論をする場を持つべきということを確認できたのが良かったと思います。

【**B**委員】

　次はちゃんと話をしたいです。委員会はこれでいいと思うので番外編のようなものがあってもいいと思います。

【事務局】

　様々な想定をさせていただいた上で実現に向けていきたいと思います。

【委員長】

　短いスパンで会議を行えるようにしてください。

【B委員】

　事務局にお願いとして、具体事例も出してほしいです。

【委員長】

　それは僕からもお願いします。

その他御意見等なければ、以上を持ちまして、本日の審議事項を終了します。

**７．閉会**